

「英語好き」な子を育てるために — 小学校における英語活動 —

春日部市立粕壁小学校 鈴木 秀明



1 はじめに

本校は、平成9年度から文部省研究開発学校の指定を受け、「小学校における英語活動の教育課程への位置づけ」について研究を行ってきた。小学校において、英語活動を導入した場合の指導方法や教材の開発が進められ、「粕壁小方式」とまでいわれる英語教育の方法が創造されてきた。さらに、平成15年度からは、春日部中学校とともに3年間の文部科学省研究開発学校の指定を受けて研究を進めてきた。昨年度は、小学校に英語科を新設した場合に必要なとされる教育課程の内容、指導方法、指導教材、評価の方法について、小学校と中学校の接続を視野に入れた英語科の指導内容や方法、評価について改めて検討し、体系化された9か年の連続した教育課程を開発することができた。

2 粕壁小方式「E-タイム」「E-タイムL」

粕壁小学校の英語学習は、毎朝9分間の「E-タイム」と週1回45分の「E-タイムL」の2つのタイプの指導時間から成り立っている。「E」は、“Enjoy”, “English”, “Everyday”の「3つのE」を意味している。

毎朝行われる「E-タイム」は、本校で独自開発された課題スキットのビデオを視聴しながら、リズムやイントネーションをまねて話す時間で構成されている。さらに、歌やダンス、スキットを発展させたゲームなど、楽しく活動しながら練習する時間も設定している。同じスキットをシャワーのように耳にし、基本的な言い回しや英語の音を身に付けていくという、英語をインプットする時間として考

えている。「E-タイム」で使用しているスキットは、身の回りのことをテーマに、春日部市のALTの協力を得て作成したオリジナル作品である。各学年4月から3月まで、それぞれ内容が異なり、ビデオテープで保管されている。

一方、「E-タイムL」の時間は、「E-タイム」で学習した英語表現、をゲームや模擬体験などで活用することを通して、学習意欲の拡大を図るとともに、英語を使う楽しさを味わわせる時間である。児童たちは担任の指導のもとに、ALT（やJTE）と一緒に買い物ゲームや道案内ゲーム活動を英語で行う。原則として、担任教師もすべて英語を使い、児童たちも自分たちが使える英語のすべてを使って活動する。インプットの「E-タイム」に対し、英語をアウトプットする時間として位置づけている。

どちらの学習も、基本コンセプトは“Do your best”。“Big voice”, “Eye contact”, “Smile”, “Try”を目指して活動している。

3 活動の実際（5年 E-タイムL）

① あいさつ

HRT: Let's start our English lesson now. Let's say “Hello”.

Ps: Hello, ○○ sensei.

ALT: Hello, everyone. How are you today?

Ps: I'm fine, thank you. And you?

HRT: I'm fine too, thank you.

② 歌 “The Muffin Man”

HRT: Let's sing “The Muffin Man.”

Ps: Yeah!

③ フレーズの練習

HRT: Let's practice. Repeat after ○○ *sensei*.

Ps: Yes.

ALT: Please listen carefully.

④ 英語ノートを使い “I will go to ～.” の言い方を聞き取る

HRT: Please listen carefully and write your answers on your textbook.

ALT: Are you ready? Please listen carefully.

Ps: Yes.

(ALT の発音を聞き、登場人物が行く予定の国名とその理由を線で結ぶ。終わったら、全員で答え合わせをする)

⑤ かるたゲーム

HRT: Let's play the “Karuta” game! Please watch the demonstration. (グループごとに分かれ、12 枚の国名が書かれたカードを裏にして広げる)

P_{3,4,5}: Where will you go this summer?

P₁: (カードを 1 枚引く) I will go to ～.
How about you?

P₂: (カードを 1 枚引く) I will go to ～.

P₁: That's great. Have a great summer vacation!

P₂: You, too.

(P₁ と P₂ が同じ行き先のカードであれば、その 2 枚のカードを減らすことができる。合わなければ、また裏返しにしてもどし、12 枚のカードが早くなくなったチームが勝ち)

⑥ BINGO ゲーム

HRT: Next, let's play “BINGO” game. Please watch the demonstration.

Ps: Yeah!

HRT: Let's start! (ペアを探して会話し、友達の言った国名をビンゴ・カードにチェックしていく)

P₁: Where will you go this summer?

P₂: I will go to ～.

P₁: That's great! Have a great summer vacation!

P₂: You, too. (交代して繰り返す)
(ビンゴが 3 ライン並んだら、ALT のところ

へ行く)

HRT: Time is over. How many points did you get? Good job.

⑦ Joyful Time

HRT: Let's enjoy the “Joyful Time”!

ALT: Are you ready?

P₁: Where will you go this summer?

Ps: Where will you go this summer?

P₁: Listen!

Ps: Where?

P₁: Spain! (アルファベットが 5 文字なので、5 人のグループを作る)

⑧ 終わりのあいさつ

HRT: Did you have fun? Today's leaders, please say “Thank you very much.”

P₁: Thank you very much.

Ps: Thank you very much.

ALT: You are welcome.

4 終わりに

本校の英語活動の基本姿勢として、「授業は楽しい」「英語が好き」と思える子を育てることを目標にしている。そのために、教師は指導の工夫、教材の開発、場の工夫など、日々研修に励んでいる。さらに、教師は授業の中で、クラスルーム・イングリッシュを使いながら、授業を進められるようにしている。

これからは、今まで研究してきたことを基盤に、平成 23 年度から本格的に実施される外国語活動との関係について研究していく。取り組み内容は、『外国語を通じた、言語や文化についての体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみなど、コミュニケーション能力の素地に関する評価及び評価方法の研究』となる。具体的には、今まで研究を進めてきたコミュニケーション能力の素地に関する評価の観点 (BEST) および評価方法 (自己・相互評価など) について、授業実践を通して検証、さらに研究を深めていきたい。